

次号予告

特集 快適性

アメニティをいかに計量化するか

……………内藤正明他(国立公害研究所)

都市と河川のイメージとアメニティタウン計画

……………北村眞一(山梨大学)

リゾート施設の魅力の構造

……………宇治川正人(竹中工務店)

オフィスのアメニティをもとめて

……………後藤敏彦(岡村製作所)

施設における快適性——待ち時間評価における

衛生器具適性個数の計画……………村川三郎(広島大学)

建築学からの発想と思考方法——左官・大工・

室配置CAD……………青木義次(東京工業大学)

日本オペレーションズ・リサーチ誌編集委員会

委員長	山田 善靖	東京理科大学
副委員長	日下 泰夫	東京都立商科短期大学
委員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	稲場日出男	工学院大学
	片山 隆仁	防衛庁
	川野幸三郎	日本ユニカー㈱
	城川 俊一	関東学園大学
	木嶋 恭一	東京工業大学
	新村 秀一	住商コンピューターサー ビス㈱
	丹羽 清	㈱日立製作所
	平林 隆一	東京理科大学
	町原 文明	日本電信電話㈱
	松本 康男	㈱三和総合研究所
	矢部 博	東京理科大学

編集後記●ORの歴史を語るまでもなく、今日までORはさまざまな分野で活躍し、貢献してきました。典型的な方法論からこれもORかと思えるものまで、幅広く問題を手がけてきています。なかには、じっくりと育て上げて黒光りのするものさえあります。しかし、一方ではORにたずさわる多くの人々は、新しい問題解決には夢中になっても、それを一般社会に普及させようとするには比較的無関心なようです。そして、ORはその性質から、一般の人々からは理解が困難で、使うのが大変だと思われるようです。ORマンは、この素晴らしい武器をいまでも自分たちだけの秘密の武器にしてきた節があります。そのことがさらに、ORマン自身が社会から認められる妨げになっていたとも考えられます●今やPR時代です。オープンにしてその素晴らしさを説いてこそ、社会の評価が得られるというものです。ORを広く普及させることはORの良き理解者を増やすことに

なり、OR学会の発展につながることはもちろん、なによりも会員のそれぞれの職場や活躍の場での居心地がよくなるものと考えられます●そこで今回の特集は、現実的な問題の解決事例をORの見本市のように楽しく勢揃いさせました。ORはこんなところにまで使えるのか、こんな切り口もあるのかと、関心を促すよう工夫しました。執筆者37名の方々には、自然および社会を対象とした広範囲な問題、トップマネジメントでの問題、投資・金融・マーケティング・計画の分野の問題、そして典型的問題の4つの領域からそれぞれの切り口で平易にかつ簡潔にまとめていただきました●「ORって何?」と尋ねられた時の入門書として、他分野の方への自己紹介用にと、本特集の活用法はたくさんあるものと思います。その結果、少しでもORの普及に寄与すれば編集者一同これに勝る喜びはありません。

(稲場 日出男)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成元年7月号 第34巻 第7号 通巻343号

代表者 森村 英典

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-815-3351(代) FAX 03-815-3352 〒113

編集人 山田 善靖

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円,郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(546-1337)、日経弘報社(563-2241)へ